

海の作文コンクール講評

受賞されたみなさん、おめでとうございます。

海は、昔から、人間にとってなくてはならない身近な存在であり、ずっと愛され続けてきました。海は、さまざまな顔をもっています。南国の太陽のもと、青く透き通る美しい海。自然の荒々しい姿をむき出しにし、激しい波が荒れ狂う北国の海。人類の生活の影響を受け、私たちに何かを訴えかける海。私たちは、これからも海と共存していきます。

みなさんは、「海」をテーマにして文章を書くことで、海のすばらしさや海を大切にしたいという気持ち、海からのメッセージなどをあらためて感じる事ができたのではないかと思います。これからも、感じる心や何かに気付く感性を大切にしてください。そして、これからも海を愛する気持ちをもち続けて欲しいと思います。

金賞 南甲子園小学校 大恵 貴子 さん（3年）

大恵さんは、自分の英会話の先生がフィリピンの出身であることから、日本と同じ島国であるフィリピンに興味をもちました。そして、将来英会話ができるようになったら、美しいと聞いているフィリピンの海に行ってみたいという夢をもちました。そして大恵さんは気付きました。憧れの国と自分の国は、「海」でつながっている。だから、日本の海を守ることは、遠い外国の海を守ることにつながる、ということに。今のその気持ちを大切に、これからも海との関わりを広げていって欲しいと思います。

銀賞 学習小学校 いわき ゆうま さん（1年）

漁師をしているおじいちゃんの孫であるいわさきさんにとって、海や海で捕れる魚は、普段の生活の一部であり、とても身近な存在なのだということが、作文を読んでよく分かりました。私たちが車でドライブに行くのと同じ感覚で船のドライブを楽しめるなんて、素敵ですね。船の上で落ちないかと心配になるくらいのスピード感とは、どのくらいなのでしょう。想像するだけで、いわさきさんのちょっと怖いけどわくわくした気持ちが伝わってきました。

銀賞 米田小学校 保田 紗希 さん（5年）

保田さんは、自分の住んでいる高砂でたった一箇所、海に触れることができる高砂海浜公園のアオサ大量発生の問題を題材に選び、その現状や原因、解決策について、調べたことや考えたことを中心に作文にまとめました。その中で、公園の人工浜の地形が原因になっていることや、解決策は地道なアオサの撤去作業しかないことを、明記しています。この解決のための地道な努力に、保田さん自身もできることから一つずつ参加していけるといいですね。

銀賞 米田小学校 沼田 姫華 さん（5年）

沼田さんは、漁師をしているおじいちゃんの船に乗せてもらったときに、見たり感じたりした海の様子を中心に、作文を書きました。船の上から見た水平線、スピードを上げたときの波しぶきや船を追いかけてくる波の様子など、海と触れ合うことの面白さを存分に味わっている様子が手に取るように伝わってきました。また、「大きな海は、小さななやみを忘れさせてくれる」という一文も印象に残りました。海には、きっと心の疲れをいやしてくれる役割もあるのでしょうね。